

2017 年度日本魚類学会年会発表要旨

水槽飼育下におけるメコンオオナマズ *Pangasianodon gigas* の摂餌周期

Feeding rhythm of *Pangasianodon gigas* in an aquarium

池谷幸樹, 国崎亮, 今井啓吾, 田上正隆, 廣瀬直人, 真田誠至, 堀江真子, 野口亮太, 中野大輝

(世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ)

メコンオオナマズ *Pangasianodon gigas* は東南アジアを流れるメコン川水系にのみ生息し、絶滅の危機に瀕している世界最大のナマズ目魚類である。本研究では、タイ国のアユタヤ内水面水産試験場から搬入した人工繁殖個体 6 個体を使用し、2004 年 6 月 18 日から 2017 年 6 月 17 日までの 13 年間にわたり個体ごとの摂餌状況を調べた。一年を通じて照明点灯時間は 12 時間、水温は平均 28.2°C を維持し、餌にはコイ用配合飼料を練り餌にして、毎日給餌した。毎日の摂餌量データをもとにウェーブレット解析を行ったところ、摂餌周期に明瞭な周期性を示す個体と不明瞭な周期性を示す個体が見られ、明瞭な周期性を示す個体は長期の絶食を伴い、その絶食期間は最長で 315 日間にもおよんだ。これまで順調に生育し、2004 年 5 月搬入時の全長 105~124cm (平均 117.2cm) から、2016 年 9 月には 145.4~166.9cm (平均 159.9cm) に達し、摂餌周期性の違いによる成長の違いは確認されていない。長期絶食を伴う摂餌周期は本種の餌となるシオグサ類 (淡水産緑藻類) の消長に同調した周期性であると考えられた。一方摂餌周期性が不明瞭な個体は長期間絶食しないことから、雨季にも何らかの餌を食べている可能性があると考えられる。